

Contents Vol.227

2022.10.7

01 巻頭特集

- 1 スポルテック東京展に初出展

03 NEWS

- 1 夏のオープンキャンパス開催
- 2 9月修了式・卒業式を挙行
- 3 日本部活動学会 来年3月本学で
- 4 学生SNSチーム 活動中
- 5 岩崎、武本 世界陸上へ
- 6 和田がインカレ2位 女子走り高跳び
- 7 体操競技部男子 過去最高5位/
全日本インカレ 女子も8位
- 8 サッカー部 野寄がJ2山口FCに加入へ
- 9 ハンドボール男子アジアJr
初制覇の学生3名が優勝報告
- 10 ハンドボール日韓定期戦
楠本JAPAN 国内デビュー
- 11 クラブ指導者研修会
- 12 「LOVE YOUR SPORTS.」
日本BtoB広告賞を受賞

09 大体大PEOPLE

横幕 佳菜・帝京大学可見高校女子サッカー部 監督

11 EVENT

- 1 野外実習 宿泊一部復活
- 2 キャリアフェスタを開催
- 3 トップスポーツクラブ体験イベント
- 4 教育後援会 役員会開催
- 5 教育後援会収入支出決算書・予算書

13 コラム「窓」

14 コラム「ボーション」



日本最大のスポーツ等展示会

スポルテック東京展に初出展



大阪体育大学は7月27～29日、日本最大規模のスポーツ・健康産業に関する国際的な総合展示会「SPORTEC2022」に出展した。出展は2019年の大阪展以来で、大規模な東京展は初。ブースでは運動部活動改革貢献事業など本学が推進する諸事業などを紹介したほか、特設会場では、原田宗彦学長らによる基調報告、本学教員による主催セミナーも開催し、多数の参加者、報道関係者の注目を集めた。



本学の推進事業を 企業関係者らに紹介

スポルテックでは、スポーツ、フィットネス、健康関係の企業・団体などが最新製品・技術・サービスを発表する。2009年に創設された。実行委員長は日本スポーツツーリズム推進機構代表理事でもある原田学長が務めている。

東京展は東京ビッグサイトで開催され、477社が出展、3日間の会期で約2万9000人が来場した。大学関係は本学のほか、東京大学、東海大学、順天堂大学、立命館大学、鹿屋体育大学など十数の大学や研究室などが出展。スポーツ庁や大阪市・名古屋市の地方自治体、各地のスポーツコミッションの参加も目立った。

本学は藤本淳也教授、富山浩三教授を中心にスポーツ局、庶務部学長室担当、広報室で準備を重ね、ブースを出展。大型ポスターで、運動部活動改革事業など本学が推進する6項目の事業などについて紹介した(別掲)。また、大型モニターで本学のPRムービー、武道ツーリズムの紹介ムービーなどを放映した。

ブースにはビジネスパーソンなど来場者が次々と詰めかけて本学の研究活動、推進事業について熱心に質問。藤本、富山両教授らが説明していた。また、その場での名刺交換をきっかけに、企業との連携を模索する例も生まれた。本学のスタッフも各ブースを訪れ、全国からオンラインで受講できる大学

院スポーツ科学研究科の昼夜開講制のメリットなどについて、企業関係者や自治体職員らに説明した。
また、ブースには関東在住や出展企業勤務の本学卒業生も多数訪れ、恩師や友人と旧交を温める場面も見られた。

ブースに掲示されたポスター

運動部活動改革貢献事業

～学生の部活動現場とのマッチングシステムを全国で初めて確立

学産官によるスポーツツーリズム事業

～武道ツーリズム、健康ツーリズム

スポーツ科学サポート事業

～スポーツ科学センターが5部門で学生アスリートをサポート

社会貢献事業

～社会貢献センターが大学の資源と社会をつなぎ、学生に実践的学びの場を提供

大学スポーツ振興事業

～クラブ統括部局「スポーツ局」が競技力向上サポート、学修支援、ブランディングを推進

大学院スポーツ科学研究科

～全国の体育・スポーツ系大学院で唯一の昼夜開講制+夜間オンライン授業

原田学長が基調講演 室伏長官らとスポーツ産業の将来を展望

スポルテックでは、オープンニングイベントとして基調講演が行われ、実行委員長を務める本学の原田学長が登壇した。テーマは「日本のスポーツ産業15兆円への拡大のロードマップ」。東京オリンピック・パラリンピックの後、いかにスポーツ産業を発展させていくかがテーマで、基調講演では、遠藤利明・自由民主党スポーツ立国調査会会長、室伏広治スポーツ庁長官との3人がそれぞれ報告した。

原田学長は「スポーツ産業だけを伸ばして15兆円規模にできるかは疑問がある」として、スポーツ産業のパラダイムシフト（劇的な変化）が必要だと強調した。東京大会のレガシー（遺産）としての施設活用にとどまらず、ヘリテージ（継承）としてのアクティブなライフスタイル、SDGsを意識した環境行動などを提唱。官民連携によるスポーツまちづくりなどを通じたスポーツ市場からアクティブライフ市場への拡大や、スポーツコミッションが司令塔となったスポーツツクリズムによる地方創生の必要性を訴えた。



室伏広治スポーツ庁長官



遠藤利明・自由民主党スポーツ立国調査会会長



原田宗彦学長

本学主催セミナーを連日開催 部活動改革、バイオメカニクス

会場では連日、本学教員による主催セミナーが開催され、企業・自治体・報道関係者らが熱心に耳を傾けた。

主催セミナー

体育系大学だから担える 持続可能な学校運動部活動の未来

【講師】中尾豊喜教授(学校教育学)、小林博隆准教授(体育科教育学)、田口雅紀・スポーツ庁政策課学校体育室室長補佐(併)運動部活動改革専門官、藤本淳也学長補佐・教授(スポーツマーケティング)＝モデレーター

本学がスポーツ庁委託事業「運動部活動改革プラン」において、学生を部活動指導者として養成し、教育現場とマッチングするシステムを構築したことや、本学学生の学校現場での部活動指導の現状、部活動改革に関する国の方針や政策について解説し、体育系大学だからこそ担える部活動改革への貢献について意見を交わした。



セミナーは会場からオンラインでも配信された

主催セミナー

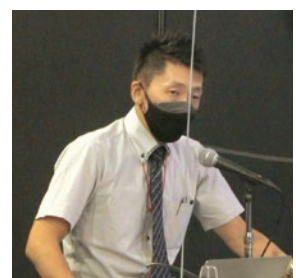
ハイパフォーマンス研究・サポートと 産官学連携への展開

【講師】石川昌紀教授(身体運動中の神経筋機能メカニクス)、藤原敏行教授(スポーツバイオメカニクス)

2014年から本学バイオメカニクス研究グループが取り組むハイパフォーマンス研究と国内外のアスリートに対するサポート事業の変遷や、そこで得られた知見から産官と連携した商品開発、今後の展開について紹介した。また、スポーツ関連企業間や大学との共同研究・開発における産官学連携の現状と課題、さらに本学の強みについて解説した。



石川昌紀教授



藤原敏行教授

夏のオープンキャンパス開催

学生と高校生・父母らが交流

大阪体育大学夏のオープンキャンパスが能取キャンパスで開催された。

7月17日、8月6、7、11日の4日間だったが、6日はスペシャルイベントデー。

原田宗彦学長のウエルカムスピーチ、体育・教育両学部の説明の後、日本スポーツツーリズム推進機構会長でもある原田学長が「シン・スポーツビジネス…進化するスポーツの世界」をテーマに特別授業を実施した。6日の体験授業は、体育学部の徳田真彦講師（野外教育）が「広がる！アウトドアの可能性」、教育学部の神山真一准教授（教育学）が「どうする!? あいまいな理科知識」教師の腕の見せ所」のテーマで講義した。

参加者の人気が高かったのがキャンパスツアー。参加者は学生スタッフの先導で学内、学外施設を巡り、学生から生の声でキャンパスや学生生活のことが聞ける機会となった。

また、6日限定として総合実験室内の環境制御室で再現した2019年ドーハ世界陸上の環境を室内に入って体験。第6体育館多目的アリーナでは、アダプテッド・スポーツ部の学生の指導でボッチャに挑戦した。

フォトスポットやSNSコーナーでは、参加者は学生SNSチームの呼びかけで写真を撮影。学生SNSをフォローし、記念品などを受け取っていた。



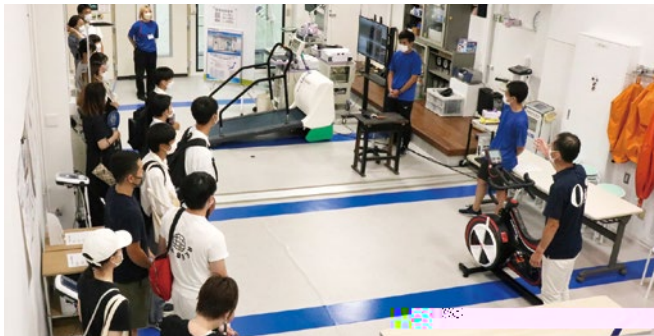
原田学長特別授業



フォトスポット



オープンキャンパスムービー



総合実験室



徳田講師体験授業

9月 修了式・卒業式を挙行

9月の卒業者を対象とする令和4年度大阪体育大学大学院修了式、大阪体育大学卒業式が9月15日、中央棟7階大会議室で行われた。卒業生は、大学院生は博士前期課程2名、学部生が体育学部9名、教育学部1名で計12名。卒業生は名前を読み上げられ、1人1人に学位記・卒業証書が授与された。原田宗彦学長は「人生には大きな出発と小さな出発があり、卒業後に過ごす青年期は人生のなかでも貴重な時期で、卒業が大きな出発点になるかもしれません。卒業という新たな出発点を大切に社会で活躍してほしい」と式辞を述べた。



日本部活動学会第6回大会が来年3月11日(土)、大阪体育大学で初めて開催されることが決まった。

日本の部活動は今年6月、スポーツ庁が公立中学校の休日の部活動を2023年度からの3年間で原則として地域移行することを具体的に提言し、転機を迎えている。全国の地方自治体は移行の方策・課題を巡って頭を悩ませているのが現状で、改革直前時期の部活動学会開催はメディアや自治体関係者などから大きな注目を集めそうだ。

部活動学会は午前に自由研究発表、午後から開会して基調報告、シンポジウムなどが想定されており、研究者や教員、教育委員会・民間団体関係者、メディアなど1500人規模の参加が見込まれている。

大会テーマは「改革 前夜、自治体の学校教育・社会教育担当が語るこれからの『部活動』プラン(仮題)」。中尾豊喜教授が大会実行委員会委員長、富山浩三教授が同委員会事務局長を務める。学生の自治による学生実行員会も結成する予定。



昨年の日本部活動学会研究会の模様

本学は2019年度からスポーツ庁委託事業「運動部活動改革プラン」を受託し、大学が各教育委員会と協力して、教員を目指す学生に部活動の指導法や生徒理解、暴力・ハラスメント根絶、熱中症の予防などの知識や技能を修得してもらおうとグッドコーチ養成セミナーを定期的に行う。ここで学んだ学生らを「部活動指導員」や「外部指導者」として学校現場や社会スポーツ団体に紹介し、指導現場とのマッチングを図るシステム作りにも全国の大学で初めて取り組み、社会貢献を進める。

昨年12月の日本部活動学会第4回研究会でも企画運営を担当。「グッドコーチ養成セミナー」の現状について小林博隆教授と比嘉靖准教授、大学院生らが実践発表した。

学生SNSチーム 活動中

「大体大SST」「教育学部広報部」

大阪体育大学の学生・大学院生がSNSチームを結成し、大学の魅力や面白ネタを発信している。

8月に学生広報チーム「大体大SST (Student SNS Team)」が結成された。チームはTikTok、Instagram、Twitterの3班に分かれ、それぞれ情報発信。「大体大生のリアル! 通学コーデ」「体大生が教える体力トレーニング」「大体大生 突撃インタビュー」などのユニークな企画を動

画などで展開している。オープンキャンパスではメンバーが来場した高校生らにフォローを呼びかけた。

教育学部では昨年12月から学生が「教育学部広報部」として、InstagramやLINEを開設。実験や図画工作などの授業風景、学部生の昼休みや弁当などの日常生活、教員へのインタビューを通して、教育学部の魅力を発信している。今後は、各ゼミの研究や活動を順次紹介予定。



大体大SSTのSNS



教育学部のInstagram



岩崎、武本 世界陸上へ

岩崎は31年ぶりの現役出場

オレゴン2022世界陸上競技選手権大会(7月15〜24日、米国オレゴン)の日本代表に、本学から岩崎立来選手(体育学部4年)がリレーで、3月に卒業した武本紗栄選手(佐賀スポーツ協会)が女子やり投げとともに初めて選ばれた。

岩崎選手は本学の現役男子学生として初の世界陸上出場。男女を合わせると、1991年の北田(現岩本)敏恵



岩崎立来(右)

選手以来の現役学生の出場となった。

岩崎選手は奈良県出身。4月に神奈川県平塚市であった日本学生陸上競技個人選手権の男子400mで46秒47をマークし優勝。FISUワールドユニバーシティゲームズ(旧ユニバーシアード、6〜7月、中国・成都)の日本代表に内定したが、大会は新型コロナウイルスの影響のため延期が決定。また、6月の日本陸上競技選手権大会(大阪・長居)では、400mで46秒24のタイムで5位入賞していた。

世界陸上では、混合4×400mリレー予選に第3走者で出場。決勝には進めなかった。

岩崎選手は野田賢治理事長長らに大会について報告。「卒業後も競技を継続し、次回はリレーではなく個人で選ばれて400mを44秒台で走ることが目標です」と話した。

一方、武本選手は兵庫県出身。体育学部4年だった昨年9月、日本インカレで59m90をマークし初優勝。ワールドユニバーシティゲームズの代表にもいったん内定していた。6月の日本選手権では60m84をマークし、3位入賞した。

世界陸上では、予選を突破して決勝に進出。決勝では2投目に57m93を記録し、11位となった。

大会後、本学を訪れて野田理事長、原田宗彦学長らに結果を報告し、「初めての世界陸上で、周りは自分よりかなり大きな選手が多かったが、やり投げは体格やパワーだけが全てではなく、自分も通用すると手応えが得られた。これからは段階を踏んで記録を伸ばしていきたい」と話した。

和田がインカレ2位

女子走り高跳び



和田真琉

第91回日本学生陸上競技対校選手権大会(インカレ)が9月9〜11日に京都市で行われ、和田真琉選手(体育学部4年)が女子走り高跳びで1m76をマークし、2位に入った。

和田選手は5月の関西インカレでも1m70で2位に入ったほか、7種競技でも4507点で4位入賞した。

このほか、日本インカレでは、女子800mで原華澄選手(体育学部3年)が2分7秒76で3位、女子円盤投げで中瀬音選手(体育学部3年)が46m92で3位となった。



武本紗栄(中央)

体操競技部男子 過去最高5位 全日本インカレ 女子も8位

第76回全日本学生体操競技選手権大会が8月19～22日に三重県四日市で行われた。本学体操競技部男女は昨年2部から1部に昇格し、そろって1部に出場。男子は団体総合で1991年以来31年ぶりとなる1部Aグループ入り（上位6校）、本学史上最高順位となる5位入賞を果たした。

種目別のゆかでは、築山翔馬選手（体育学部1年）が優勝。つり輪で田部壮一郎選手（体育2年）が3位、跳馬で築山選手が8位入賞した。また、田部選手は個人総合で10位に入り、U-21大学生強化メンバーに選出され、ハンガリー遠征に参加した。

女子は団体総合で8位に入賞。個人総合では北田綺女選手（体育学部2年）が14位に入った。



優勝した築山のゆか



3位となった田部のつり輪



団体総合で1部8位入賞の女子



過去最高の5位となった体操競技部男子



©nozomifujita/ouhs

サッカー部 野寄がJ2山口FCに加入へ

サッカー部男子の野寄和哉選手（体育学部4年）がプロサッカーJリーグ・J2のレノファ山口FCに2023シーズンから加入することが、8月18日に内定した。

野寄選手はスポーツ教育学科4年。身長163^{cm}、体重59^{kg}。福岡県出身で、東福岡高校から本学に入学し、ポジションはFW。チーム一のハードワーカーで、関西学生リーグ前期終了時点で1部のアシストランキングは1位（7ポイント）だった。

野寄選手は「4年間切磋琢磨した、サッカー部の仲間たちとスタッフの方々、大阪体育大学関係者の皆様に感謝している。大学で学んだことやたくさんの出会いは、どれも自分にとって財産。学生生活最後まで大阪体育大学サッカー部に貢献できるよう頑張ります」と抱負を語った。

ハンドボール男子アジアJr 初制覇の学生3名が優勝報告



左から、野田理事長、荒瀬廉、近藤アレキサンダー偉一郎、今井寛人、原田学長

ハンドボール第17回男子アジアジュニア選手権（7月15〜24日、バーレーン）でU-21日本代表が初優勝を果たし、代表メンバーの本学学生3名が8月5日、野田賢治・浪商学園理事長、原田宗彦学長らに優勝を報告した。

荒瀬廉（体育学部2年）、今井寛人（体育学部3年）、近藤アレキサンダー偉一郎（体育学部2年）の3選手。荒瀬選手はベスト7に選ばれた。

3名は金メダルを胸にかけ、ハンド

ボール部男子・下川真良監督とともに理事長応接室を訪れた。野田理事長は「ぜひ、男女とも本学の現役学生や卒業生に、パリ五輪に出場してほしい」と東京大会に続く本学勢の五輪出場に期待。原田学長は「金メダルの獲得は素晴らしいことです」と活躍を称えた。

荒瀬選手は「中東勢は自分より30分以上大きな選手ばかりで対応が難しかった。次も世界で戦えるようにしたい」と話した。

ハンドボール日韓定期戦 楠本JAPAN 国内デビュー

ハンドボールの日韓定期戦が9月4日、愛知県で3年ぶりに行われた。

女子は本学の楠本繁生教授が昨年秋、代表監督に就任し、国内ではこの試合が楠本JAPANのデビュー戦となった。

日本代表「おりひめJAPAN」には代表19人中、本学から在学学生では岡田彩愛選手（体育学部4年）、石川空選手（体育学部2年）が、卒業生では11名がメンバーに加わった。

試合は序盤から対日本55勝7敗2分と圧倒する韓国が猛攻。日本は司令塔の2020年度卒・相澤菜月選手（北國銀行）を中心に追撃し、岡田、石川両選手がともに2ゴールを決めたが、試合は19-25で韓国に敗れた。

一方、男子は本学から成田幸平選手（湧永製薬）、柴山裕貴博選手（ジークスター東京）の卒業生2名が出場し、25-19で韓国に勝利した。



©Yukihito Taguchi/JHA



楠本繁生監督



動画ニュース

クラブ指導者研修会 日体大・伊藤教授招き開催

「運動部指導に活かす！」

「アスリートセンタード・コーチング」

本学のクラブ指導者を対象にした研修会「運動部指導に活かす！アスリートセンタード・コーチング」が7月21日、講師として日本体育大学の伊藤雅充教授を招いて開催された。

伊藤教授は日体大コーチングエグゼクティブレンスセンター長、アジアコーチング科学協会副会長。種目を問わず、コーチのコーチングスキル向上の支援に取り組んでいる。

研修会には本学の多数のクラブ指導者、教職員が参加。コーチらが、プレーヤーの人的成長とパフォーマンス発



参加者はグループごとに実践的なワークに取り組んだ



達をアントラージュ（取り巻き）として支援していく、アスリートセンタード・コーチングについて学んだ。

伊藤教授は「コーチや親の情熱がアスリートの害になることもある」と大人の逆依存現象についても説明。また、「コーチは共に学び、共に歩む旅人」と強調した。

講義後は参加者全員で実践的なワークに取り組んだ。



動画ニュース

特設サイト

「LOVE YOUR SPORTS.」

日本BtoB広告賞を受賞



スポーツが好きな女性をテーマにした本学の特設サイト「LOVE YOUR SPORTS. あなたの『好き』が未来をひらく」が、第43回2022日本BtoB広告賞ウェブサイト（スペシャルサイト）の部で銅賞を受賞した。

このサイトのプロモーションムービーでは、女子学生3人のキャンパス生活をカメラが追う。「小さい頃から踊ることが好きだった」「大好きなワールドホッケーを諦めたくなかった」「中学生のころ体育の先生が私のヒーローだった」彼女たち。「スポーツはプレーするだけじゃないから。スポーツはだれかと通じ合うことも、感動を伝えることも、自分を輝かせることだってできる」と語り、それぞれのやり方でスポーツに関わっていく。

大阪体育大学はスポーツの得意な学生が集まっているイメージを持たれることも多いが、

「LOVE YOUR SPORTS.」では「みんなが皆、トップアスリートを志すような特別な人ばかりじゃない。例えば『体を動かすのが好き』なら、入学の動機はそれで充分」とメッセージを送っている。

日本BtoB広告賞は1980年に始まった広告作品のコンテスト。特設サイトは昨年、制作された。



「LOVE YOUR SPORTS.」ムービー



女性最年少で A 級ライセンス 生徒の日々の成長が楽しみ



帝京大学可児高校女子サッカー部 監督

横幕 佳菜さん

横幕 佳菜（よこまく・かな）
1993年4月25日生まれ、29歳。大阪体育大学体育学部健康・スポーツマネジメント学科卒、48期。サッカー部女子出身。2016年の卒業後、城南高校（岐阜市）に保健体育科教諭として赴任。2018年同校を退職し、スポーツクラブ運営会社「COPIN」入社。同時に業務契約を結ぶ帝京大学可児高校（岐阜県可児市）に女子サッカー部コーチとして派遣される。2021年から監督。2019年のインターハイでベスト16。同社が運営する中学生の女子サッカーチーム（FC.ENFINI ROSA）のコーチも務める。

—— **学生生活の思い出は。**
濃い4年間を過ごしました。サッカー部がより良くなるには、チームが勝つにはどうしたらいいか、毎日、仲間や監督と話しました。サッカー部では、最初はセンターバック、その後MF。「自分の考えを持つこと。それをきちんと伝えること」の大切さをクラブで学びました。

—— **部の指導で心掛けていることは。**
サッカーのスタイルとしてはポゼッションサッカー。ボールを大事にする、

—— **なぜ大阪体育大学に入学したのか。**
小学3年からサッカーを始め、大阪桐蔭高校3年の時に全国大会で2位に。将来、女子サッカーに関わりたくて、関西で一番強かった大体大に進みました。学校の先生になりたいという気持ちと、子どもから高齢者まで幅広く生涯スポーツを学びたいという思いもあり、健康・スポーツマネジメント学科を選びました。

—— **教員を辞め、スポーツクラブ運営会社へ。決断した理由は。**
帝京大学可児高校がスポーツクラブ運営会社の「COPIN」と女子サッカー部指導の業務契約を結んでいて、「社員として帝京大可児でサッカーを教えないか」と声をかけてもらいました。私は岐阜県の高校女子サッカーを発展させたいと考えていて、新たな職場ではサッカーの指導に打ち込むことができると思い、決断しました。今は、日中はCOPIN本社の人事部でアルバイトの採用、社員の履歴書整理・入力などデスクワークをし、その後、帝京大可児高校に行って指導。夜は中学生チームの指導です。好きなことをさせてもらっているのが、毎日がとても楽しく感じます。

夢だった女子サッカー部の指導を実現するため、高校教員を2年で退職し、スポーツクラブ運営会社に転職。業務契約を結ぶ帝京大学可児高校（岐阜県可児市）で女子サッカー部のコーチ、監督を務める。今年1月女性の保持者としては最年少で、日本サッカー協会のA級ライセンスを取得。挑戦したきっかけは、「反骨心」だった。

—— **卒業後は。**
地元の岐阜県で女子サッカーに携わりたいという希望がありました。岐阜県の私立高校が保健体育科の教員を探していて、岐阜出身の私に就職支援センターから連絡があり採用が決まりました。赴任した城南高校（岐阜市）には女子サッカー部はなく、1年目で弓道部副顧問に。学校とは別に岐阜県サッカー協会の事業であるトレセン活動でU-15女子のコーチを務めました。

ボールをみんなで繋ぐことを意識しています。さらに、「繋ぐ」の言葉を大切にしながら、「ボールを繋ごう」「みんなの想いを繋ごう」「卒業生の想いや悔しさ、応援している人の想いを繋ごう」といつも言い合っています。

なぜ、A級ライセンスに挑戦したのか。

2021年の監督就任がきっかけです。監督はコーチと違い、選手起用もサッカースタイルもすべて自分で決めますが、自分はまだまだ知識が足りない、勉強不足だと思っていました。また、女子サッカーでも、指導者は男性の方が多い。監督になると、「女性だから」という目で見られることが多く、それが悔しかった。今までも悔しさをきっかけに行動に移すことが多く、周囲の目をプラスにして行動に変えるためにA級ライセンスを取ろうと思えました。

A級取得までの道のりは。

A級は、プロの指導者として必要なS級に次ぐライセンス。1週間ずつ3回の合宿が静岡、Jヴィレッジ（福島）、鹿島であり、昨年末、後期合宿の



最後に試験がありました。私はその試験では通らず、今年1月の追試で合格しました。

合宿では、受講生のほとんどが元日本代表でした。大野忍さん（2011年W杯優勝FW・MF）、山郷のぞみさん（元日本代表GK）らモチベーションの高い人ばかりで、最年少の私にとってその場にいるだけで刺激になりました。講師も影山雅永さん（U-20日本代表監督）、小野剛さん（元広島監督）らすごい方で、サッカーの歴史、ゲーム分析、指導実践、プレゼン発表などを指導していただきました。

監督として今、重視していることは。

選手の気持ちです。選手がどう思っているかどう感じているかをまずは聞くことに気を配っています。また、育成年代の高校生・中学生を指導していて、教えたことができなかったものがある、きのうできなかったことが今日できるようにになっているのがとてもうれしくて、やりがいを感じています。

将来、指導者を目指す大体大生が、学生のうちにやるべきことは。

大人になってからは自分の成長のためには限られた時間しか使えません。いろいろなことに興味を持ち、大学生のうちにしかできないことに取り組んでほしい。自分の将来をきちんと考え、そのために今は何をしなければならぬのか明確にして行動に移すことが一番大事だと思います。



笑顔の絶えないチーム作りが目標



卒業生紹介ムービー

野外実習 宿泊一部復活

臨海、キャンプ、海洋スポーツ、夏季海洋

野外活動実習が7月以降、各地で開催された。

体育学部では、野外活動実習は必修科目。自然環境の中で集団を作り、非日常的な環境で活動を共有することによって得られる学びを重視している。学生は臨海、キャンプ、海洋スポーツ、キャンプ、スキー、ゴルフの中から一つを選択する。

新型コロナウイルスの影響で2年間は中止や近隣での日帰りになるなど活動内容は大きく制限されたが、今年は宿泊も一部復活し、通常の実習に近づいた。

また、教育学部には野外活動夏季実習、冬季実習があり、夏季実習が3年ぶりに実施された。



体育学部 臨海実習・最終課題の遠泳に挑む



キャンプ実習・シャワークライミング

〈体育学部・臨海実習〉

7月4～8日、和歌山県白良浜で実施された。実習では、初歩の水泳指導から始まり、スキューバダイビング、ライフセービングや遠泳を体験するプログラムに参加した。

学生は最終日に最終課題の約40分間の遠泳に挑戦。途中、声を掛け合い励まし合いながら全員が泳ぎ切った。

〈キャンプ実習〉

8月22～24日、25～27日の2期に分けて貝塚市の大阪府立少年自然の家で実施された。当初は宿泊予定だったが、コロナ対策のため日帰りに切り替えられた。

キャンプ実習では、2～4年生の学生が「シャワークライミング」「ASE (Action Socialization Experience) 課題解決型アクティビティ」「野外生活技術」の3グループに分かれて活動。自然環境の中で、仲間との協力の意味や新たな自身への気づき、野外で活動するためのスキルについて学んだ。

〈海洋スポーツキャンプ実習〉

9月5～11日、徳島県・YMCA阿南国際海洋センターで前後期に分けて行われた。31年前の第1回から国際海洋センターで実施。コロナ禍のため2年間は大阪府岬町での日帰りだったが、3年ぶりに本拠に戻り、2泊3日でキャンプファイアーも復活。参加者は、ヨット、ウインドサーフィン、カ



海洋スポーツキャンプ実習・ヨットを巧みに操る

ヌーや無人島での釣り・シュノーケリングに取り組んだ。

〈教育学部・野外活動夏季実習〉

教育学部の野外活動夏季実習は9月5～7日、大阪府立青少年海洋センターで開催され、1、2年生約40人が参加した。学生は初日に3班に分かれてヨット、カヌー、カッターに乗船して海上活動に取り組み、2日目はビーチで班ごとにサンドアートに挑戦。イルカや「OHS」などを砂で作った。最終日にはいかだに乗った後、ビーチバレーやビーチフラッグ競争に汗を流した。



教育学部・野外活動夏季実習



海洋スポーツキャンプ
実習動画ニュース

「知らない世界」を知ろう！

キャリアアフエスタを開催

就職活動が本格化する時期を目前に控えた3年生を対象に、様々な企業の採用担当者やビジネスの第一線で活躍する方から企業や団体の説明を受けるキャリアアフエスタが8月4、5日に開催された。

様々な業界を知り、卒業後の進路選択に活かすことが目的。オンライン形式で企業や団体によるLIVE配信や動画配信が行われ、参加した学生は2日間で合計8つの企業・団体の説明を受けた。

学生は積極的に質問し「ひとつのプロジェクトに何人が関わるのか」「業務の中で大変だったことは」などと担当の方に質問をしていた。

今回の参加企業・団体などは次の通り。

関西テレビ放送、東京消防庁、鶴見製作所、ホリプロ、警視庁、ニプロ、良品計画、三井住友銀行、日東工器、北川鉄工所、ミズノ、積水ハウス、リゾートトラスト、日本通運、和泉学園（法務教官）、青年海外協力隊（JICA）、教員（小学校・中学校・高等学校・特別支援）、アルペングループ、熊取町役場、大阪体育大学大学院、海外留学



オンラインで企業から説明を受ける

トップスポーツクラブ 児童と学生が体験イベント



〈バスケットボール〉シュートに挑戦

学内にある子ども体育教室「トップスポーツクラブ」の体験イベント「第1回いろいろな球技を体験しよう！」が7月10日、熊取キャンパスで開かれた。

バスケットボール部男子の比嘉靖監督、ハンドボール部男子の下川真良監督、バレーボール部女子の長江晃生監督とクラブ生らが小学生を指導した。

トップスポーツクラブは1989年、浪商学園が設立。主に小学生を対象にし、第3体育館などで体操などに取り組んでいる。

イベントには小学生約80人が参加。1年生、2・3年生、4年生以上の3班に分かれて3競技を体験した。



〈バレーボール〉お姉さんにアンダーハンドパス

バスケットボールでは、児童らは学生に教えてもらいながらパスやドリブルを練習した後、シュート。バレーボールでは背面キャッチやアンダーハンドパスに挑戦。ハンドボールでは、トランポリンを使ってジャンプシュートを体験。児童にとって学生とともにスポーツの楽しさを満喫した1日となった。



〈ハンドボール〉GKと対決



動画ニュース

教育後援会役員会を開催 父母らの代表が予算・事業計画案を承認

令和4年度の大阪体育大学教育後援会役員会が7月23日、本学の大会議室で開催され、学生の父母等の代表26人と法人や大学の幹部が出席した。

冒頭に佐川弘美会長が「学生の皆さんが現在開催中の世界陸上やデフリンピックなどで活躍され、うれしく思う」となど、治理事長のあいさつに続いて議事に移り、

令和3年度の事業、決算案が長崎正巳事務局長から報告され、拍手で承認された。

その後、令和4年度役員選出に移り、大田政信副会長が新会長に就任。令和4年度の事業計画、予算案が審議され、新規事業となる3、4年生全員へのポロシャツ配布、軽食提供事業への援助などを盛り込んだ事業計画、予算案が承認された。

◇新役員のうち会長、副会長、

▽副会長 大田政信

▽会計監査 宇野修、西岡潤哉

(敬称略)



大田新会長

◇会計監査は次の皆様



教育後援会役員会

大阪体育大学教育後援会 令和4年度収入支出予算書

収入の部 (単位:円)			
費目	予	算	額
会費収入	33,516,000		
前年度繰越金	25,260,860		
利息	500		
寄付金	0		
特別会計より繰入	0		
計	58,777,360		

支出の部 (単位:円)			
費目	予	算	額
(1)学生援助費			
①課外活動	2,300,000		
②大学祭	500,000		
③学生生活支援	8,000,000		
④傷害治療援助	7,000,000		
⑤就職振興	5,000,000		
⑥卒業行事	4,000,000		
⑦災害見舞金	100,000		
(2)教育援助費			
①クラス活動	1,500,000		
②学会発表	500,000		
③文化厚生	4,000,000		
(3)課外活動特別援助	5,000,000		
(4)事業費			
①会報費	3,000,000		
②慶弔記念費	1,100,000		
(5)運営費			
①会議費	160,000		
②事務費	1,500,000		
(6)特別会計繰出金	10,000,000		
特別経常費	0		
予備費	5,117,360		
次年度繰越金	0		
計	58,777,360		

特別会計(特別対策基金)収入支出予算書

特別会計(特別対策基金)収入支出予算書 (単位:円)			
項目	収入	支出	
前年度からの繰入金	50,393,689	0	
定期利息	900	0	
今年度繰入金	10,000,000	0	
今年度繰出金	0	0	
次年度繰越金	0	60,394,589	
計	60,394,589	60,394,589	

大阪体育大学教育後援会 令和3年度収入支出決算書

収入の部 (単位:円)			
費目	決	算	額
会費収入	33,456,000		
前年度繰越金	24,210,519		
特別会計より繰入	0		
利息	316		
学生徴収分	476,260		
計	58,143,095		

支出の部 (単位:円)			
費目	決	算	額
(1)学生助成費			
①課外活動	2,055,430		
②大学祭	0		
③傷害治療助成	3,501,090		
④就職振興	3,466,173		
⑤卒業行事	3,005,391		
⑥災害見舞金	0		
(2)教育助成費			
①クラス活動	443,917		
②学会発表	10,000		
③文化厚生	3,575,000		
(3)課外活動特別助成	2,000,000		
(4)事業費			
①会報費	2,893,083		
②慶弔記念費	622,000		
(5)運営費			
①会議費	107,120		
②事務費	1,203,031		
(6)特別経常費	10,000,000		
予備費	0		
特別会計繰出金	0		
次年度繰越金	25,260,860		
計	58,143,095		

特別会計(特別対策基金)収入支出決算書

特別会計(特別対策基金)収入支出決算書 (単位:円)			
項目	収入	支出	
前年度繰越金	50,392,836	0	
今年度繰出金	0	0	
定期利息	853	0	
次年度繰越金		50,393,689	
計	50,393,689	50,393,689	



◆3年ぶりの宿泊実施となった海洋スポーツキャンプ実習を取材しました。台風一過で

波は幾分高かったのですが、学生に「模範演技」をしてみせた教員のウィンドサーフィンの見事なこと。学生も最初は波に苦戦していたのですが、次第に巧みにヨットやウィンドサーフィンを操り、海辺には歓声が。夜はキャンプファイアーも復活し、実りの多い実習になったと思います。

◆野外活動実習の様子は11ページにまとめました。今回、本誌を編集していて、コロナ禍で大きな影響を受けた学生生活がようやく元に戻りつつあることを実感します。7月には学内の子ども体育教室「トップスポートクラブ」の小学生と本学の3クラブの部員が交流し、体育館いっぱいには児童の笑顔が広がりました。これらの模様は動画にまとめていますので、各ページのQRコードからご覧ください。◆長引くコロナ禍の間にオンラインの活用など新たな知恵や技術が磨かれましたが、その間、学生は自らの成長にとって必要な多くの場を失いました。「密」の文字はすっかりマイナスイメージが定着しましたが、授業や実習、クラブで仲間と肌触れ合うほどの密接な関係でいることは、本来大切なこと。まだ、感染対策で気を緩めることはできませんが、少しずつ大学がコロナ前に戻ってほしいと思います。

【大坪康巳】

日常生活の難問と格闘する件



コラム **ボーシヤー**

名誉教授 和田隆夫

ぼくの親は、ぼくがなにかを決めようとするとき気長に待つような人たちだった。

自分で決めることは「生きる力の術(すべ)」として庶民には必要なことだと、戦争を体験した親は言いたかったのかもしれない。抗うことのできない状況のなかでも自分で決められることを見つけて、判断していく智慧を身につけてほしかったのだと考えることがある。

たしかに人生は選択の連続だ。ただしそれが長く続くと精神は疲弊し、あげくの果てには、砂漠の真ん中で遭難したくなる時がある。

ぼくたちはいったい何を基準にして、どのような方法で事柄を決めていけばいいのだろうか？

最近日常生活の難問に遭遇した。イメージとしては、四則計算では解けず、二次関数の問題である。頭の中は「てんやわんや」だった。

ぼくの予定はこうだった。

- ①9月12日(月)大阪から岡山へ移動
- ②13日(火)から16日(金)までN公立大学で集中講義
- ③17日(土)から19日(月)まで三朝温泉滞在
- ④19日(月)大阪に帰る
- ⑤20日(火)朝9時より病院で定期検査

実際は予想外の事態が重なっていくのである。

台風が突然やってきた。超大型の台風14号である。9月14日(水)午前3時、小笠原近海で発生したが、ぼくは高気圧が日本を守ってくれる、暑いのは我慢しなくてはと思っていたが、するりと体(たい)をかわされた。なんと高気圧が動き出したため、台風14号は、15日(木)に沖縄にやって来たあと、九州から日本列島を縦断する最悪な台風となった。そうなると思返する19日(月)頃には岡山から大阪を台風は通過するようである。新幹線は止まる。

20日(火)朝9時から病院の検査があるので、前日までに帰らないといけない。新幹線の運休を考えると、遅くとも18日(日)には帰らないといけない。温泉に行っている場合でない、と単身赴任中の妻に言われ涙を流した。

それなら日程を早めて、18日(日)に帰ることにした。悲しい決断だった。

しかしその後16日(金)の夜、娘からの連絡で、コロナに感染したことを知った。21日(水)まで自宅待機になったので、感染してほしくないから、22日(木)に帰って来てとのことだった。当初微熱があったが、それは収まり、若干の咳以外変調はないと言う。元気な声で安心はした。食料は、大阪市から段ボール箱にいっぱい送られてきたこともあり、一人でも乗り切れそうだ。

この時点でようやく直面する問題の複雑さがわかってきた。

少しでも問題を単純にしなければならぬと考えたが、自然現象、病気に対してぼくは無力でどうしようもない。まずできることは、病院の検査日の変更だ。

このとき週末から19日(月)の敬老の日を含めての3連休ということ忘れていた。翌17日(土)病院に電話をいれるが、ガー

ドマンらしき人物の対応でちががあかない。諦めて19日(月)に連絡しようと思って気づいた。その日は敬老の日だ。そうすると火曜日の朝9時の検査直前に電話を入れるしかない。これはドタキャンになる。あるいは大阪に帰り、濃厚接触者になることを避けるためにホテルに宿泊して検査を受けるか。問題はますます複雑化した。

娘は心配だが今のところ大丈夫だ。高齢者リスクを考えると帰宅は22日とすることが最上と考えた。

病院の件はどうするか。9時の検査なので当日大阪に帰ることはできない。そのためホテルに宿泊して病院に行く選択肢もあるが、そうすると台風のため少なくとも18日(日)には帰り、大阪のホテルに2泊して検査することになる。費用等を考えるとあまり上策ではない。しかし延期は、連休のため病院と連絡が取れず、ドタキャンになることから、費用と道德の比較考量の問題になってしまい、大いに悩んだ。結局のところ病院に迷惑をかけるドタキャンを選択した。

もちろん三朝温泉は中止である。代わりに妻が日帰り温泉に連れて行ってくれた。

20日(火)9時前に病院に電話をかけ、ドタキャンをわびて、予約の変更をした。よくあることのように親切な対応だった。

22日(木)に大阪に帰った。この日から娘は入社していて、ぼくは帰宅してさっそく消毒で汗を流した。

最善の決定をしているとは思えない。しかし幸運だったことはたしかである。もし娘が重症化したり、台風の被害がもっと大きかったり、夫婦喧嘩をした直後の病院職員が電話対応をしていたりしたら、状況はもっと深刻になっていただろう。今回の場合、問題が重なって難問になっているが、それとともに深刻になったのは、娘の命、ドタキャンはよくないという道德、ホテル料金という経済、台風の進路と交通状況の判断といった、1つのはかりではそれぞれを比較できないものを比較しようとしたことにある。

ぼくたちは、なにかを決定するとき、選択肢を数値化して、ランキングを付け、その上位を選ぶことに慣れている。いわゆる物の軽重である。そのため他人の評価が気になる。衣類も食事も大学も数値化して判断している。数値化は、自分で決めることのないへんさを軽減するいい方法ではあるが、今回のような、ジャンルの違うものとの比較や、違う価値観との比較をする場面では無力である。

クイズです。腹が減っているが食事をするのと恋人との待ち合わせ時間に遅れるとき、あなたならどうする？

ぼくは走る。



大阪市から届いたコロナ感染者への援助物資



本物を学び、極める

大阪体育大学

【大学院】

- スポーツ科学研究科
博士（前期・後期）課程

【体育学部】

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】

- 教育学科

大学事務局

庶務部、教学部、入試部、広報室
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設等

図書館、スポーツ局、社会貢献センター
情報処理センター
スポーツ科学センター
国際交流センター、学習支援室

<https://www.ouhs.jp/>

OUHSジャーナル 2022年（令和4年）10月7日（金）

発行所：大阪体育大学 広報室 発行責任者 大坪康巳 協力：教育後援会・学友会
大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 電話 (072) 453-7021 FAX (072) 453-8818